



通常の学級における

多様な教育的ニーズのある子どもの指導・支援の 充実に向けて

村山地区特別支援教育研修会 8月26日（火）

講師：岡山大学名誉教授・岡山大学学術研究院教育学域特任教授 佐藤 暁 氏

学校では、子どもの多様な教育的ニーズに応えることができる教育が求められています。なかでも、特別な支援を必要とする児童生徒も含めた、すべての児童生徒が「わかる」「できる」を実感し、学びを深められる授業づくりが大切です。すでに、ユニバーサルデザインの考えを取り入れたり、ICT を効果的に活用したりするなどの工夫が見られますが、今後よりいっそう指導・支援の充実につなげるために、日々の授業づくりにおいて大切にしたいことについて2つ紹介します。



○ 教師が授業の8割を話している授業になっていませんか？

☞ 「子どもが自分でしゃべってわかる授業」への転換

- ・ 話しすぎの先生に子どもが合わせていることがあります。子どもがわかるときは、自分でしゃべることができたとき、自分の言葉で語り直せたときです。自分の考えは語ることによってできあがります。子どもの活動量を保障することが重要です。
- ・ 答えられない子どもには、「自分の考え」をもてるように、その子どもが初めて語る「できたてはやの言葉」を大切にしていあげましょう。語り口はとつとつとしていて、なかなか先に進まないかもしれませんが、どんな話になるのか楽しみにして聞いてあげましょう。



○ 「教え合い」で困っている子どもはいませんか？

こんな光景を目にしませんか…？

- ◇ いつも教わってばかりいる子どもは、教えてくれる子どもに悪いと思ってわかったふりをしてしまう。よく理解できないまま答えだけを写してしまう。
- ◇ 教わってできた子どもは、次は自分も席を立てて教える側になるが、できずに座り続ける子どもは、何をしたらよいかわからず授業が終わってしまう。

☞ 「訊いたらわかった」という経験を教師と子どもが一緒に積んでいく

- ・ 「どこまでならわかるのか」をはっきりさせて、何をどう訊いたらよいかを教師と一緒に考えてあげましょう。「ここまでわかっているのなら、ここを訊いてみたらいいよ」と、尋ねる内容を絞ってあげるなど、教師が訊き方の手本を示すことが大切です。
- ・ 子どもに「訊く準備」ができたなら、答えてくれそうな友だちを見つけ、ちょうどいいタイミングでその子どもにつないであげましょう。「子どもどうしをつなぐ」ことが教師の役割です。
- ・ 説明は一緒に聞き、わかったことを共有してあげましょう。「わかった」までの経験が大切です。

“言葉は届けるもの・受け取るもの 受け取る人がいてこそその言葉”（佐藤暁先生の言葉より）

授業中の子どもの姿をよく見取りましょう！

山形県幼児教育研究協議会

幼児教育と小学校以降の教育で、互いの教育内容や指導方法、教育の連続性・一貫性についての理解を深め、どのような連携・協働を進めていくかを考えることをねらいとして行われました。

村山管内の幼稚園・認定こども園・保育園をはじめ、小学校、中学校、特別支援学校、保育行政、教育委員会から、180名を超える方々に御参集いただき、活発な協議が行われました。

☆協議題：幼児教育と小学校教育の円滑な接続の推進について☆

子ども一人ひとりに芽生えた興味や関心、子ども自身が考え納得していくプロセスを、丁寧に見取っていくことが、幼児教育と小学校以降の教育を円滑に接続していくために大切です。具体的な事例をととして、幼保小中の先生方とともに、見取りの大切さを学ぶことができました。磯部先生からは、円滑な接続のための具体的な取り組みについても、教えていただきました。

何から
始められそう
ですか？



宮城学院女子大学
名誉教授 磯部 裕子氏

① 訪問し合い、互いの教育実践を知る

保育・授業参観をととして、各園・各学校ではどんな教育実践が行われているのか、それらの実践にはどんな意味があるのかなどを見合う。

② 「幼児教育は小学校教育の土台である」という意味を考える

幼児教育は小学校教育の先取りをするのではない。「3つの資質・能力の基礎を育む」という幼児教育の役割を、幼保小中のそれぞれの立場で考える。

③ 対話を通して「学びをつなぐ」

幼保小中の先生が仲間として協働し、学び合う。子どもを真ん中において、互いの子ども観・教育観・実践観について、対話することをととして理解を深める。

【参加者の
感想より】

- ・ 幼稚園の「遊び」と小学校の「遊び」は認識が違うのではないか。先生同士、子どもどうしの関わりを深め、共通認識を図ることが必要である。（幼稚園教諭）
- ・ 幼小接続は難しいと感じていたが、互いの教育について知り、どちらも歩み寄ることで子どもたちの負担のない成長につながると感じた。（小学校教諭）

令和7年度青少年地域活動・ボランティア活動推進事業

期日：8月4日（月）、5日（火） 会場：県青年の家（天童市）

<令和7年度テーマ>

一人ひとりが可能性にチャレンジ!!



今年度、村山管内19校より総勢56名の中学生の皆さんが参加して行われました。ボランティアサークルで活動している高校生や大学生をはじめ、各市町教育委員会担当者等を班付アドバイザーに迎え、学校や年代の枠を超えた方々と意見を交わしながら、保育施設や放課後児童クラブ、介護福祉施設でボランティアを実践しました。実技講座で学んだことを活かして、自分たちが考えたボランティアを実践し、充実した2日間となりました。今後も、参加した皆さんが、地域や学校で活躍していくことを願います。

- ・ 私はこの2日間でたくさんの仲間と協力して、成長し合うことができました。どうしたら園児が喜んでくれるのか学ぶことができ、園児たちと楽しく触れ合うことができました。私はこのようなボランティアに参加したことが初めてだったので、とても良い体験をすることができてよかったです。（中3）
- ・ 2日間の活動を経て、私は以前より初対面の人とも協力して活動をすることができたと思います。以前は、初めて会う人に、いつも壁を作ってしまうことが多く、仲良くなるのに時間がかかっていました。これから高校生や大学生、大人になっても新しい人と出会い続けると思うので、仲良くなれるように自分を出すことをがんばりたいと思いました。（中3）

